

■ 学歴

1. 2017年 熊本学園大学大学院 社会福祉学研究科社会福祉学専攻(博士後期課程)修了

■ 学位

1. 2017年 博士(社会福祉学)

■ 研究分野

1. 社会福祉学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. 精神保健福祉
2. 障害者福祉(発達障害)
3. 子ども家庭福祉

■ 研究課題

1. 地域で生活する家族が抱える生活課題(不登校・ひきこもり、子育て、虐待、介護、精神疾患など)に各当事者(家族1人ひとり、家族、地域の支援機関・施設の支援者等)に取り組む上で生じる語りを対象として、主に質的研究・量的研究の方法を用いて社会問題の現状と課題を明らかにするとともに、ソーシャルワーカーとして各当事者に対する支援に求められる知識・技術について明らかにすることを目指している。特に、家族が抱える生活課題の現状及び傾向、家族支援における視点、援助技術の生成などについて社会福祉学の観点により研究している。

■ 担当授業科目

1. ソーシャルワーク演習(後期)(福祉学科)必修
2. 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ(前期)(福祉学科)必修
3. 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ(後期)(福祉学科)必修
4. 精神保健福祉制度論(後期)(福祉学科)選択
5. ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ(前期)(福祉学科)選択
6. ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ(後期)(福祉学科)選択
7. 健康相談(後期)(看護学科)選択
8. 現代の精神保健の課題と支援Ⅰ(前期)(福祉学科)選択
9. ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ(前期)(福祉学科)選択
10. ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳ(後期)(福祉学科)選択
11. ソーシャルワーク実習指導A(通年)(福祉学科)選択

12. ソーシャルワーク実習 A (通年) (福祉学科) 選択
13. 専門研究 I (通年) (福祉学科) 必修
14. 精神保健福祉援助実習指導 II (通年) (福祉学科) 選択
15. 精神保健福祉援助演習 III (通年) (福祉学科) 選択
16. 国家試験対策(地域福祉と包括的支援体制 I・IIを担当) (集中) (福祉学科) (学科主催の対策指導)
17. 精神保健福祉援助実習 II (通年) (福祉学科) 選択
18. 専門研究 II (通年) (福祉学科) 必修

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	<p>授業科目名【ソーシャルワーク演習】</p> <p>近年の社会福祉に関する問題を取り上げ、その事例を基にグループワークを通して他者と意見を共有しながら、自分なりの理解を深めていく機会をできるだけ確保した。学生同士の振り返りを通して、個別の内容をグループ全体に共有することにより、学生自身の気づきを共有できる時間を設けた。福祉的課題・問題の理解については、主に複合課題を抱える家族の問題を事例として取り上げ、自己覚知・他者理解の促し、支援者に求められる基本的なコミュニケーション技術等について学生同士の関わりを生かして理解を深めた。</p>
2.	<p>授業科目名【地域福祉と包括的支援体制 I・II】</p> <p>地域福祉を捉える視点を学ぶとともに、地域福祉の主体や地域福祉の推進のための制度・仕組みについて理解することを目指した。前期は、地域福祉の概念、行政システム、社会福祉協議会、民生委員・児童委員、福祉教育、コミュニティワーク等を中心に指導に従事した。後期は、コミュニティソーシャルワーク、事例教材等を基にした地域福祉の実際について触れ、地域福祉の推進の在り方について指導に従事した。教科書の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。</p>
3.	<p>授業科目名【精神保健福祉制度論】</p> <p>メンタルヘルスの課題を抱える当事者(精神障害者など)を取り巻く法制度の詳細についての理解を深めるとともに、相談援助活動を展開する精神保健福祉士の役割について捉えることを目指した。教科書の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって、学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。</p>
4.	<p>授業科目名【ソーシャルワーク演習(専門) I～IV】</p> <p>本科目は、社会福祉士指定科目の 1 つである。講義では、複合課題を抱える家族への支援事例を用いて、ケースワークの展開プロセス、アセスメント技法、地域組織化活動の手法等について教授した。また、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れ、学生同士、様々な視点から事例検討が進められるよう工夫した。</p>
5.	<p>授業科目名【健康相談】</p> <p>本科目は、看護学科のうち養護教諭を目指す学生を対象に、福祉専門職の立場により、学校に通う児童生徒が抱える問題(不登校・虐待、貧困など)の現状と課題、家族支援の在り方、校内での支援体制の構築、養護教諭として地域の支援機関との連携・協働の在り方について指導に従事した。文部科学省の資料の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視</p>

	覚情報を併用することによって学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。
6.	<p>授業科目名【現代の精神保健の課題と支援Ⅰ】</p> <p>本科目は、メンタルヘルス(精神保健)に関する現象・問題等を体系的に捉え、対応策や予防策を見出していくための学問となる。精神的な健康や精神障害等が、当事者を取り巻く生活環境と強い関連性があることから、その対応と予防においても、さまざまな要素を同時的、継時的にみていく上で、精神保健の概要、現代の精神保健分野の動向、基本的な考え方、ライフサイクルにおける精神保健を概観するとともに、精神保健の視点からみた家族、学校、地域における精神保健活動と精神保健対策治療的アプローチ、法律等について、公的資料等の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。</p>
7.	<p>授業科目名【ソーシャルワーク実習指導A】</p> <p>福祉学科3年生を対象にした実習科目。精神科医療機関への実習に向けての事前及び事後学習として、実習中に求められる知識・技術、学生の疑問等を整理の上で、学生自身が実習に取り組む主体者として学習できるよう担当教員一同にて検討の上、工夫した。</p>
8.	<p>授業科目名【専門研究Ⅰ】</p> <p>本科目では、ゼミ全体で研究テーマを設定した後、各人が個別の課題について自己学習を行った。学生指導においては、できる限り各人が研究への関心を高め、意欲的に学習に取り組めるよう努めた。</p>
9.	<p>授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅱ】</p> <p>福祉学科4年生を対象にした実習科目。3年次の医療機関の実習を踏まえて、更なるステップアップを目指していけるよう、4年次の地域実習に向けての事前及び事後学習として、実習中に求められる知識・技術、学生の疑問等を整理の上で、学生自身が実習に取り組む主体者として学習できるよう担当教員一同にて検討の上、工夫した。そして、実習後は報告会を通して、学生自身が実習中の学びを、より実践的な理解として深めた。</p>
10.	<p>授業科目名【精神保健福祉援助演習Ⅲ】</p> <p>精神保健福祉士として現場実践を行う際に、求められる知識・技術の習得を目指し、演習プログラムを通して指導に従事した。特にソーシャルワーク場面で欠かせない面接技術やリハビリテーション技術を織り交ぜて、理論と併せて解説を行い、理解を深めさせた。4年後期に開講することから、精神保健福祉士国家試験受験対策的な内容も併せて行うよう心掛けた。</p>
11.	<p>授業科目名【国家試験対策(地域福祉と包括的支援体制Ⅰ・Ⅱを担当)(学科主催の対策指導)】</p> <p>本科目は、4年次の社会福祉士国家試験の受験を目指す学生を対象に指導に従事した。講義では、地域福祉論を担当し、国家試験で出題が予想される制度改正や学生の理解度が十分でないと思われる内容を中心に教授した。</p>
12.	<p>授業科目名【専門研究Ⅱ】</p> <p>本科目では、各人が研究テーマ・課題を設定し、調べ学習及びレポート作成に取り組んだ。学生指導においては、各人とのコミュニケーションを密に図り、進捗状況に応じた個別指導を心がけた。</p>

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2014年6月～現在に至る	日本社会福祉学会	九州地域部会事務局・事務局員 (2018年6月～2022年6月迄)
2.	2019年6月～現在に至る	日本地域福祉学会	日本地域福祉学会全国大会第36回 年次大会事務局 実行委員 (2020年6月～2022年6月迄)
3.	2014年7月～現在に至る	日本ソーシャルワーク学会	正会員
4.	2012年5月～現在に至る	日本学校ソーシャルワーク学 会	日本学校ソーシャルワーク学会全 国大会第15回熊本大会事務局 運営 委員 (2021年6月～2021年8月迄)

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					
1.	2023.5	介護系 NPO における制 度外サービ ス開発のポ イントを探 る-過去調査 と 2 法人の 事例検討を 通じて-	共	地域ケアリング 5月号 vol.25、 No.5	① 本論文は、本郷等による過去の介護系 NPO における調査結果と 2022 (令和4)年度に実施した制度外サービスに関するインタビュー調査結果を手がかりに、介護保険事業を実施する NPO 法人による制度外サービスの開発のポイントを探りつつ、その課題について検討した。 ② 共著者名 本郷 秀和、田中 将太、 <u>梶原 浩介</u> ③ 共同研究につき、本人担当部分抽出不可能。
2.	2024.3	介護系 NPO における制 度外サービ スの開発プ ロセスに関 する研究-イ	共	日本の地域福 祉、37巻	① 本論文は、介護保険事業と独自の制度外サービス(特定非営利活動としての生活支援)を実施している特定非営利活動法人(以下、介護系 NPO)に着目する。介護系 NPO が制度外サービスを拓くための共通的な開発プロセスを明らかに

		インタビュー調査を通じた発想から実施直後までのプロセスの探求-			<p>することを目的とし、九州・沖縄の介護系 NPO の 10 法人に対するインタビュー調査を実施した。M-GTA の結果、制度外サービスの着想から事業化の決定までの間には 7 段階、事業化の決定後から実施直後までには 6 段階の取り組みがあることがわかった。</p> <p>② 共著者名 本郷 秀和、<u>梶原 浩介</u></p> <p>③ 共同研究につき、本人担当部分抽出不可能。</p>
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	地域包括ケアシステム推進下における介護系 NPO の役割	日本学術振興会	研究代表者(○本郷秀和)、分担研究者(鬼崎信好、村山浩一郎、松岡佐智、畑香理、田中将太、島崎剛)、 <u>梶原浩介</u>	4,420,000 円
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.	地域共生社会の推進に伴う、制度の狭間の問題に対するソーシャルワーカーの	日本学術振興会	2,210,000 円	

	役割と技能			
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2014年11月～現在に至る	熊本県精神保健福祉士協会 SSW委員会	調査研究班
2.	2014年5月～現在に至る	日本精神保健福祉士協会	会員
3.	2019年12月～現在に至る	福岡県精神保健福祉士協会	実習指導委員会 (2021年4月～現在に至る)
4.	2019年12月～現在に至る	北九州地区精神保健福祉士協会	会員
5.	2019年12月～現在に至る	北九州市民カレッジ企画運営委員 員	企画運営委員
6.	2021年4月～現在に至る	北九州市福祉事業団 福祉サー ビス苦情解決体制・第三者合同 委員会	専門委員
7.	2021年4月～現在に至る	北九州市社会福祉協議会 ボラ ンティア・市民活動センター 運 営委員会	運営委員
8.	2021年6月～現在に至る	NPO 法人障害者支援要会 カフ ェ・ラポール	監事
9.	2021年7月～現在に至る	北九州市発達支援センターつば さ・ケース検討会	アドバイザー
10.	2022年4月～現在に至る	宮若市地域福祉計画策定委員会	委員長

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2019年4月～現在に至る	学生アドバイザー	アドバイザー教員
2.	2020年4月～現在に至る	地域連携室	室員
3.	2021年4月～現在に至る	国際交流委員会	委員
4.	2021年4月～2022年3月迄	ハラスメント相談員	相談員
5.	2022年4月～現在に至る	学生総合支援室	アドバイザー
6.	2022年4月～2023年3月迄	教職員懇談会	委員